

第2回太郎川公園再生検討委員会 議事録

日時 : 令和3年11月17日(水)18時～

場所 : 梶原町役場2階2-1会議室

出席委員: 12名(空岡則明、上田末喜、長山和幸、森山真二、上田知子、山口眞知子、
石川清利、田村俊夫、明神哲男、和田紗代、那須絵梨、アウテンボーガルト
陽平)

欠席委員: なし

事務局他: 大川真一郎、山本和正、田尾由紀、笛木保志、立道斉、来米修作、小池幸仁

・開会

・審議

【空岡委員長】

はい。それでは早速審議に入りたいと思います。今日の次第として皆さんにお配りしておりますけれども、今日はですね、まず雲の上のホテル、レストランについてということで委員の皆さんのこの見解に対する考え方についてですね、是非、皆さんからご意見を伺いたいという風に思っております。考えを聞いた上でですね、今後の考えられるホテルの課題の整理と方向性について検討していくということになろうと思いますので、ひとつ忌憚のないご意見をいただきますようによろしくお願いを申し上げたいと思います。挙手によって、順番はいつでもいいんですけどもどういたしましょうか。順番に出していただいてもよろしいでしょうか。いいですかね。それではですね、A委員の方から順次お聞きをしたいと思いますので、どんなご意見でも結構ですのでよろしくお願いをいたします。

【A委員】

はい。それでは最初に口火を切らしていただく形になるわけですが、まずこの計画が途中で変更になるという、要するに立ち止まって考えるという町長の思いからスタートしていると思うんですが、どういう点が今から変更ができるのかということが前回の時にはよくわかりませんでした。町民の方から、私の近所の人の方からも聞いてみると、規模の問題であったり、収支の問題であったり、誰がどういう風に運営をするのかというそういうところがよくわかっていない方が多かったです。私自身もその辺のところははっきりしないような状況であります。特にどういう点が問題かという、今の作ろうとする雲の上のホテル・道の駅の市場、それから太郎川公園全体ということになると思うんですけども、今、現時点では私が知りたいのはですね、いろんなところで説明会をやっておられます。その説明会ではどういう意見が出たのかなというようなことが私はわかりません。いろんなことを断片的には聞くんですが、今、先ほど規模の問題とか収支の問題とかそういうところについては聞くんですが、いろんな地域でそういうものを説明会等行われてきたという風に思っていますので、その点を意見としてどういうものがでてきたのかということがわかるようでしたら是非教えていただきたいなという風に思っています。その中で私が理解しているのは、規模の問題と

して 42 部屋の 84 人という定員がでておりますが、先だってこういうことを伺ったときに、大型観光バス1台プラスアルファのような考え方をしておられるということがやっと理解が出来たというようなことでして、そういういろいろ不明に感じるところはもっともっと出していかないとどういう点が問題なのかということが分かりにくいのではないかなという風に思います。したがって、いろんな人に話を伺っても結構莫大なお金をつぎ込んでいくことに対する不安が多いようですので、規模の問題とかは説明がきちっとできるような根拠を持った形で取り組んでいかないとなかなか理解が得にくいのかなという風に感じました。せっかくなのでいいものを作るという計画ですので、しかも構原町の玄関口ですので、是非、皆さんが支持していただけるようなものを作るということで考えていきたいなという風に思っておりますので、是非、皆さん思いつかれたことはどんどん出していい方向に持っていけるように、楽しみになるような施設になってほしいなというように私は思っています。以上です。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございました。それでは続きましてBさん、よろしくお願いします。

【B委員】

私、団体会長でございますので、今、町からの指定管理を受けまして雲の上のホテル、温泉、プールというのを営業してもらっておりますので、少し皆さんと情報量の違いがあるという風に理解をしておりますので、一般公募の皆さんのご意見も聞かせていただくのが僕は先なのかなと思いますけれども、まず、思いがあって手を挙げてこられた方の心配事とかご意見等というのがすごく大事なのかなという風に思ってます。そういう時間がとれたらいいのかなという風に思ってます。今、多分、町民の皆さんが大きな、先ほどもA委員も言いましたけれども大きな投資をする。して、観光産業にやっていくんだという話がでておるところです。そもそもなんで観光産業をやらなくてはならないのかという説明というか、が、私は十分に町民の皆さんが理解できるようになっていないんじゃないかなと思ってます。私は2、3年前からもう一度観光のことを勉強しようとして観光創生塾に高知に通ったり、各指定管理の人達と高知県内外含めてお話ししたりしながら研修をしてきたので少し情報量が違うという風に思いますので、私としてはひとまずこういう形の中で話が進められたらいいのかなという風に思ってますのでどうぞよろしくお願いします。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございました。それではCさん、お願いします。

【C委員】

はい。皆さん、こんばんは。私の方はですね、この検討委員会のメンバーですけれども雲の上観光協会の理事も皆さんとやっています。その関係で前回、理事会がございまして、その中でこの検討委員会で示された内容についてもっと詳しくお話をいただきましたので、是非、事務局やまたホテルの支配人の考え、そういったもののいわゆる経営のビジョンであったりコンセプトであったりそういった内容をですね、是非かまわない範囲で事務局からお話をいただければですね、なお話がわかりやすいのかなという風に理事会の感想でした。施設規模等を検討せよという諮問ですので、じゃあ大きくするのか小さくするのかというような話になりがちなんですけれど、その前

に是非、そう言ったお話をしていただければわかりやすかったかなという風に自分ではこの間の理事会の感想ではありましたが、それを是非、お願いしたいかなという風に考えます。はい。

【空岡委員長】

はい。Dさんお願いします。

【D委員】

えっとですね、私は雲の上のホテル、レストランについてですが、やっぱり4、5年前からこう、お店に来るお客様が前の日に泊まって感想を言うのにやっぱり音がうるさかったとか、本当、ホテルの不具合というものが結構出てきた部分があって、それと今、10年前から言うとお客さんのニーズが本当に変わってきて、Wi-Fiがないといけないとかバスとかそういうものが普通のところよりもっとよくないといけないとか、やっぱりその10年前からかなりこう変わってきたと思うんですね。そんな面ではやはり改修というのは絶対せないかんのやなと思ったけど、ホテルを建て替えるところまでは私も考えてなかったの、実際こうなったとしたときに、やっぱり数字のこととか中のことは私たちは全くこう説明されてもね、わからないんですね。ただ思うのはやっぱり理想、この構原町で経済効果を出すことがやっぱり交流人口じゃないといけないという思いが非常にあるので、今お店もレストランがないばかりにものすごい人が詰めかけてきてるというか、そこで私がもう対応しきれないという状態が今続いております。これが3年間つづくのかなというちょっとぞっとするんですよ。やっぱりホテルとレストランは早くこう、欲しいんですけど、やっぱりそれがどんなものではないといけないとかいうのは私なりにとは思わないんですが、やっぱりホテルとレストランが一緒になるのはいつもこの間も言ったんですけども、ホテルに泊まっているお客さん優先でほかの人が入れないという状況が結構あったんですよ。やっぱりそういうのはちょっと困るなと思ったりもして、その辺もまた検討していただきたいと思うんですけど、やはり早く欲しいなというのを常々思っております。ただそれをどういう風についていうのはちょっとわからないんですが、とにかく金額とかこの間事務局長に説明を受けたんですよ。非常にわかりやすかったです。なんでこの説明をもっと早くから言えばわかっていたんですけど、それはコロナでしようがなかったのかなと思うんですが、これからでも遅くなくて、やっぱり今、観光産業でやっていかないと他に何も無いんだよというところはやっぱり住民の方々にもわかっていただく部分があればいいなと思っております。

【空岡委員長】

はい。Eさん、お願いします。

【E委員】

はい。失礼します。私も図面を見ても言葉を見ても何となくまだ私の頭の中には描けないので、どう言うていいのかわからないんですけども、私たちが作ったものを出したりとか作ったもので食べてもらったりとか、構原が大好きだよって泊まりに来てもらったりとか、そういうやっぱり交流はしたいし、いい場所にしたいとは思いますが。それでその規模とか収支とかのところはちょっと私にはわからないので、教えていただきたいです。それから議会にもこの太郎川のが立ち上がっているといると思うんですけど、そんなのも聞かせてもらえたらなと思います。以上です。

【空岡委員長】

はい。それではFさん、よろしくお願いします。

【F委員】

はい。前回欠席したのでちょっと把握できてないところもあると思うんですけども、人口が減っていく図を見ると60年には1000人台に入っているのとかを見て、大変申し訳ないんですけども、多分これは僕は止められないんじゃないかなと思っています。それは日本の人口が減ってるので、これは大体カーブを緩められてもこうなるのかなと思っています。そうなったときにやっぱり外貨を獲得するというか、お金稼いでいくことが出来ていればこういう風に人口が減っても幸せな町になれるんじゃないかなと思っています。そのためにはやっぱりホテルがすごい大事で、基本的には改修する事とか投資をしていくことにはすごく賛成です。今言っていることがあっている、今この場で言うことかわからないんですが、僕は規模っていうよりは採算が取れるのとか、目的なだけ稼げるのとか、本当に黒字になるというか実際の収支だけじゃなくていいと思うんですけど、経済効果も含めて利益が出るというか回収できるのか、そこがすごい大事かなと思います。乱暴な言い方をすれば、回収できるんだったら投資は大きければ大きいほどいいんじゃないかなぐらいには思っています。なので、計画の内容に僕は興味があって、その計画についてみんながよしこれでやってみようというような計画が出来たら投資をすればいい、そういう計画が出来たらいいなと思っています。以上です。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございます。Gさん、お願いします。

【G委員】

私もこういう場が初めてなので、どういう風に伝えればいいのかっていうのがうまいことまとまてない部分はあるんですけど、私がもともとこの検討委員会に興味を持ったきっかけは、ホテルとか道の駅とかっていうよりはどちらかというと私は公園の整備とかそっちの方の部分で興味があって参加させていただいているので、すこしちょっと、もしかしたら違うのかなと思いながら見てる部分はあるんですけど、私はもともと県外出身でこっちの出身じゃないので、ちょっと感覚とか考え方が違う部分があるのかもしれないんですけど、橿原町はいい町だと思うんですけど、例えば隈研吾さんの建物があるよって言っても隈研吾さんの建物を見に来たことによってお金が落ちるかっていうと多分落ちなくて、図書館とか役場を見に来られる方もいらっしゃると思うんですけど、バスがよく停まっているので、見に来てるのかなっていうのは思いますけれど、見に来たことによって多分お金は落ちてないし、ご飯を食べるところもまだ少ないので、よく図書館とかで、図書館の近くにいてたらご飯食べるところないとか聞かれるけど、開いてるかなとかいろいろ考えてしまって、そこまで無責任なこと言えないので、開いてるかどうかわからんけどあそこにお店がありますみたいなことを言ったりとかするので、そういうのも残念やなって思ったりもしますし、隈研吾さんの建物のブームじゃないけど、それもいつまで続くかっていうのも正直よくわからない部分もあるし、それに頼ってホテルを作りました、でもブームはもしかしたら去るかもしれない、去ったときにお客さんが来るのかどうかっていうのも少し疑問に思う部分があるので、何か橿原ならではの何か来るものみたいなそういうのを作っていかないと厳しいんじゃないかなと思いますし、佐川町だったら

木のおもちゃの美術館みたいなのできるらしいですけど、来年かな。そういうのが出来れば観光客とか、そういうの泊まる泊まらないに限らず来ますよね、お客さんは。佐川町に来ますよね。その佐川町にしかない建物とかそういうがあるので。なのでそういうので来た人は入館料とかそういうので落ちるので、お金を落とすこと、お土産とかも買うやろうし、なのでそういうのが隈研吾さんの建物とかそういうの以外に何か必要なんじゃないかなと思います。私はどちらかというと、梶原には子どもが遊べる場所が非常に少ないと思っていて、図書館の芝生とかやまがら公園とかありますけど、規模がちっちゃいので、子どもがのびのび遊べる場所がすごい少ないなって思っていて、なので太郎川公園がそういう子どもが遊べるような場所になればいいなという風に思っていて、そういうのも少し検討の中に入れていただけたらありがたいなと思っています。

【空岡委員長】

はい。

【G 委員】

以上です。

【空岡委員長】

はい。Hさん、お願いいたします。

【H 委員】

H です。まず今回応募した動機からなんですけれども、私は今回のことに関心がなかったわけはありません。資料も去年のものを見させてもらって、私はその内容がいいとは思えないけれど、私は町外から移住して一年半の私は、梶原のことまだまだわからないことが多いから、梶原の方たちがそれでいいと言うのであれば私達は私たちの幸せの感じることをしていこうと思っていました。回覧板で今回の委員の募集が回ってきたとき、ある時、梶原町に暮らす方が言っていた自分も年だしそろそろ世代交代をせんといかん、若い人を育てんといかんという言葉に背中を押されて応募をしました。今回この場に参加する機会をいただきましてありがとうございます。令和3年10月末現在、梶原町総人口3,349人のうちの一人の町民として身が引き締まる思いです。また、人生の先輩方が今回の問題にどのような姿勢で向き合っていくのかを見せていただけること、学ばせていただけることを楽しみにしています。私は7年ほど前に県外より梶原町へ移住した夫との結婚を機に町外より移住しました。家や畑や裏山を使わせていただき地域の方々にも教わりながら自分達の手で自然とともに小さいけれど豊かな幸せを感じられる暮らしをつくり、ことを経験させていただいていることに幸せと感謝を感じています。町民、住民が愛せないものづくりは長く続かないと思います。四万十川源流域、山岳地域の梶原には他のどの地域もゆってきてあるようにここにしかない美しさがあります。自然と人の営みは宝物です。都会的な感性だけでなく、自然を生かす、日々の営みの中にある確かな生きる知恵と技術を生かす、梶原の人を生かす、ここへ来たら忘れかけた何か大切なことを思い出してくれる、また訪れたい、暮らしたいと思える場所作りをして欲しい、町の玄関として訪れる方に何を感じてもらえるだろうか、何を伝えられるだろうか、私たちが子ども達に何を残せるだろうか、何を残したいだろうか、わずか27年で建て替えなきゃいけないような人もものも粗末にするような状況を生まないようにデザインから施工、家具や備品までひ

とつひとつ丁寧に見ていく、どんな時代が来ても対応できる地に足のついた目先の利益にとびつかないものづくり、場所づくりをみなさんの知恵でして欲しい、今回の規模に関してもいろいろ思いがありますけれど、まずはこのあたりで、はい。締めさせていただきます。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございます。Iさん、お願いします。

【I 委員】

こんばんは。まず、ちょっと、僕も年寄りやけんど、年寄りらが言うに今の町長は存外銭があるいうたち、とひょうなことをするねやというのが一番、その思いだと思うんですよ。採算が取れるとかそういうなんというか細かいことじゃなしによね、存外とひょうなことをするねや、これはお前50億あったち、すぐないなってしまうぞ言うてね思うちゅうんですよ。それから規模をどうせえとか太おせえとか小もうせえというより、一番僕が思おたことは、あとで聞いてみりゃあ結構安普請じゃったねやというような感じを受けとるんですよ。隙間風が吹く、いろいろ声が聞こえるとかなんとかそういう意見がうんとあったしね。せっかく建てるがやったらそれほどその、今言う規模の人員が、人が入るスペースばっか確保するよりは中がもっと重厚なというかね、もっとええ部屋をお客さんは求めるんじゃないやろうかと思う。それからその部屋数を少のうしてもそういう風にしたら方がお客さんが来ると思うけ、あんまり安普請で壁を薄うするよな、隣の声が聞こえるよなじゃ、そりやすぐにまた建て替えになると思う。それとレストランやけんど決して二十何年間で僕も何回かレストランへも行ったりして食べたけんど、おいしいと思ったことは一回もない。こんなもんじゃったらお客はあんまりこんなと思うたこと。やっぱみんなもカレー屋でわかっちゅうようにちょっとでもおいしかったらよね、お客はいっぱい来らあよ。決しておいしくないけ、こんな長いことやったちよね、こりゃいかんと思うよ。メインの料理をやったらそりやホテルよりはもっと、ホテルのこといろいろ考えるより有効なと思う。ま、今のところそういうことです。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございます。Jさん。

【J 委員】

私は7年前に今、里の事情で帰ってきたんですけど、それまでのことはあんまりわからんのやけど、まあ梶原町は38年かな、大きな災害、それによって雇用が増えたというか建設業が栄えて、その間には司馬遼太郎さんが梶原町に関する本を出されていろんなことでまあ繁栄していく、また豊かな町長さん、それから議会、それから町民に恵まれて440号とか197号線の整備とか、これはもう梶原町の一生の宝物、将来に残る富と思っております。ただ、ここに来てこういう問題が出て、これが民主主義で議会で承認されて、それからまた覆してこういう問題にまでということはものすごくナンセンスだと私は思っております。ただ、こういう問題が出た以上は何らの形はつけていかないけんのじゃないかと私は思っております。ただ、こういった問題が起きた元は、ただ高い安いかでなくて皆さんが今も言われたように価値観だと思います。それで例えば、今計画ができた時点でこれを覆して我々素人がここをこうしたらええんじゃないかとかこうしたらええんじゃないかということになりますとやはり帯には短し、たすきには長し、そんな施設と思います。するべ

きことはもうここまできたらしたらええんじゃないかと私は思います。ただ、その中で箱ものというのは必ずしも絶対プラスになるとかそういう問題ではまずないと思います。そういうことを考えればやっぱりこれからの若い者に負担をかけない、恐らくかけるであろうと私は思います。ただ、そうであればこれから若者を、例えばホテルを構原町の大人がまずホテルを利用した人はあまりいないと思います。若者が構原のホテルに一回泊まってみたいというような、なんらかのよさをもった、また外部から友達を呼んでも綺麗なホテルがあるからお前行こうと、やっぱり若者がリピーターになってくれるそういう建設をしてくれたらいいんじゃないかと思います。まあ公園とかそれからその、道の駅とかそういうことはまだそれほどにしろ、問題ですけどそれより先に金の中心であろうやっぱりホテルの問題は簡単にこうじゃいうわけにはいかん、やっぱりそれやったらどうせ金を使うんやったら若いもんが来てくれる、また構原町の者が利用してくれる、そういうものをこれから考えていったらいいんじゃない。この会で考えて何らかの形は出さないと、この大人がこればあ集まってやった価値がないと私は思っております。以上です。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございます。ただいま委員のみなさんのご意見を聞かせていただきました。いろんな内容はございますけれども、やはり最終的にはやっぱり先ほど今、Jさんが言われたようにホテルの建設そのものがやはりこう町民のためになるホテル、これが目的にならないといけないんじゃないかなという思いがいたします。やはりホテルができることによってやっぱりこうお客様が寄って、それでそれが経済効果となり最終的にはやっぱりそれが町民にはね返ってくるというそういう経済の流れが必要だろうという風に思います。それぞれを行うような、いわゆるお客さんにも来てもらい、そして町民の方もそこにあわせていき、周辺で楽しみが出来るようなそういう再開発、これを目的として現在もそういう計画で進めてやっておるとは思いますけれども、そういう中においてこれから皆さんのご意見を一つひとつ掘り出しながらですね、一つの方向性に向かって皆さんのご意見をまとめていくような形をとりたいという風に思います。委員の皆さんの意見を今お聞きしましたので、ここです、今日もアドバイザーの小池さんがお越しをいただいております。小池さんのご意見も伺ってですね、今後の話の仕方や内容をですね、感想を交えご意見いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

【小池氏】

皆さん、こんばんは。いろいろとあの、すごく熱いものだったりとかあったかいものだったりとかそういう意思を感じるお話がたくさんあって、ぐっときたのがまず感想です。僕らは民間ホテルをやっているの、そういう立場でお話をする方が効果的だと思うのでそういう話をしたいと思うんですが、ちなみになんですけども、僕はどんなホテル、Fさんがおっしゃったように投資はいくらかというのは別にそんなに実は問題っていうか、すごく大事なんですけど、ちゃんと回収できるのかどうかっていうことがしっかりちゃんと回っていれば、僕はいくらでもかまわないと思うんですね。金額が大きければ大きいほどリスクが高いんで、もちろんその覚悟が要りますけれど、で、今僕らがホテルを作ったりとか携わっている立場からお伝えさせていただくと、すごく乱暴な言い方をすると儲けないホテルは絶対続かない。儲けなくていい、赤字になんないければいいって言ったら絶対に続

かないです。さきほどおいしいと思ったことがないとおっしゃったじゃないですか。儲けないというのは例えばレストランだったら美味しくする必要がないんですよ。美味しくないと儲からない、もっともとお客様に来ていただこう、儲けようとなってくると商品を研磨していった努力をいっておいしくなっていくんですけど、まあおいしくないおいしいは主観の問題なんでちょっとわからないですけど、口に合わなかったからなのかもしれないですけど、僕は美味しいと思うかもしれないですけど。でもそのホテル自体が本気で儲けよう、本気でお客様にご満足いただこう、もっと多くのお客様に来ていただこうっていう風に常にフルコミットで動いていかないと働く人も面白くないし誇りに思えないし、ちゃんと建物の経年劣化どおりにお客様減ってくるんですよ。なので、おそらく建物自体はすごくいいものができると思うんです。投資金額が大体27, 8億なのかな、みたいなことを聞いてますけど、うちの会社だったら喉から手が出るほど欲しい投資額です。素晴らしい事業だと思うんですよ。これをその28億に勝るものにしないといけな。10年経ったら、いや本当に作ってよかったね、めっちゃめっちゃ働く人も生き生きしてるし町民全員が誇りに思っているし、県外からもなんなら海外からも、ターゲットはどこにするかちょっとわかりませんが、いらっしゃるというような存在にする方が、方がじゃない、するべきだと思います。じゃなかったら極端な話、やんなくてもいいんじゃないかなって思うんですよ。まあでもやると思うんですけど。それは今からなので、如何様にもできると思って大事なのは皆様にとってお客様にとって町全体にとってどんな存在意義のものなのかっていうことをちゃんと合意形成するっていうことです。正解はないと思うんですよ。同時に不正解もない。儲けなかったら不正解かなと僕は思うんですけど。色んな方法があっても何かに方向性は決めていかないとダメで、どこかで覚悟をもってこうやってやっていこうというのをこのメンバーで決めなきゃいけない。で、決めた後は絶対に文句言わない。こういうホテルにしよう、こういうお客様にしよう、って決めた後はそれを決めた時点では正解かどうかかわからないですね。だけどこのメンバーで決めたことが正解になるような努力を本気でやるっていうことがこれから大事で、これからだったらできるわけじゃないですか。だから、どういう存在意義のホテルなのかっていうことはこのメンバーで決めていく。なるべく早くって感じなのかななんて思います。中身のレストランどうするかっていうのはそこに紐づいてくるので、また例えば宴会場をどうするのか、結婚式どうするのかとかっていうのはその存在意義の何のためにやるのかっていうところのコアに全部つながってくれば良いと思うんで、そこを早めに固めたいですよ、って思います。で、ちょっとこの前も話したんですかね、どうリアルに妄想ゲームができるかですね、お客様になりきってどういう風にホテル使ってレストラン使ってお孫さんなりお子さんなり友達なりがどういう表情でそこにたたずんでいるのかみたいなのを妄想ゲームがリアルになるパターン、それは成功するんですよ。そのためのサービスが必要で、そのための教育が必要でこういうものが必要でというところがあって。なんかちょっとあんまりまとまりませんが、僕が言いたいのは絶対に儲ける視点がいることと何のためにやるのかということをこのメンバーで決めるというのがまず先決かなと思います。以上です。

【空岡委員長】

はい。貴重なご意見ありがとうございます。大変申し訳なかったんですけど、Kさんのご意見を

ちょっとですね、大変申し訳ありません。

【K 委員】

はい。ありがとうございます。そうですね、今、小池さんのお話を聞きながらなるほどなあということですから、ごく賛成できる部分がたくさんありまして、実はあの、前も話したとおり私は平成4年に千枚田のオーナー制度が始まって当時県外から椿原に通い始めて、多分、今、解体が進んでいる雲の上のホテルの話が進みはじめてできあがるのを毎日とは言いませんけど椿原を訪れるたびにその中身は拝見してきたつもりです。実際に泊まったこともあります。多分、小さなミュージアムに出てたかなと記憶してるんですけど、あそこの施設自体は農水省の補助金等々もあって地元の産品、特に肉類を提供するレストランという話からスタートしていった、それが途中からホテルとかっていう話が入ってきて関係者の皆さまには大変失礼かもしれませんが、その辺の右往左往が中途半端な形になってしまった結果が、やれ壁が薄いだの何が薄いだの音が聞こえるだのというような話になってしまったのかもしれないなという風に感じたりしてます。今後、検討委員会の知見というのは拝見しても、いろいろこう、議論を進行させていくってということもありますので、ちょっといくつかだけ私も意見を言わせてください。まずホテルの規模については、現計画維持です。ただし、フロアの二分の一から三分の二程度については、今、一部屋ツインにしてるやつをもう二部屋ぶち抜き広さにして、いわゆるスタンダードツインとかって言われているサイズ感からセミスイートサイズぐらいの形にして客単価倍にする。当然のことながら今、小池さんがおっしゃったみたいに地元の食材を使って納得して満足してくれる料理も提供する。だから、この間ここで説明があった客単価のほぼ倍です。を狙っていく必要があるのかな。その根拠は何かって言われたら、小池さんはよくご存知だと思いますけれど、おそらく再来年ぐらいにはインバウンドがまた解禁されて、外国の富裕層がどんどんまた日本に入ってくる可能性、もう既に出てきているのでそういう人たちを意識しながら椿原の自然全体で取り組みリピーター化していく、そうすれば収支も安定してくるかなという気がしております。そのためにはネットワークの構築ってところで、大都市圏で東京とか大阪というのはもちろんですけど、ローカルでいうと四国の松山の道後温泉とか、高知の宿泊施設とかでもいわゆる連携協定を結んでいわゆる送客、回遊性の物語っていうのを作ってということでお互いお客様を送る、受け入れる、そういう中でいわゆる回遊性の物語を作っていくって稼働率を向上させていくっていうのも一つの手かなと思いますし、隈研吾さん、さっきいずれサビ付くんちゃうかっていうような話もありましたけど、一概に比較はできないかもしれないですが、以前あった屋の説明会のときにも私申し上げたんですけど、現実、今、私椿原と松山を行き来しながら仕事してます。50万います。今、松山の人口。その50万の人口のいる松山経済を支えているのはただひとつ、皆さんよくご存知のあの道後温泉です。今、もうあの耐震化で、あれ潰れるとえらいことになるんで必死になって今、耐震化の工事進めてますけど、それだけを目的に年間何百万というお客さんがやってくると。今、工事で二分の一使えない、二分の一見えない、そんな状態でも、もう既にお客さんが東京や大阪からかなりやってきているということになってますので、高知県の椿原町に関していうと、もうオリンピックのスタジアム建設で世界的なネームバリューとなった隈研吾、これは十分に松山でいう道後温泉になりうると思ってますので、隈研吾が作っ

たホテルに泊まれるステータスっていうのは、国内だけじゃなくて、国際的にも十分通用するのかなと私は思っています。あと1個、フェーズフリーっていう言葉を私も最近勉強しまして、フェーズっていうのはその時の状況っていう意味合いになってくるのかなと思うんですけど、平時は観光とかビジネスとかウエディングとかコンベンションとか対応するホテルもですね、いざ地震とか災害が起こった場合にはいわゆるフェーズが変わるって最近よく整備課なんかも言ってますけど、地元住民とか町にその時滞在している人の避難先っていうことになってくると思うんですよね。そのためにもしもその規模のホールも必要でしょうし、前回説明があったとおりホールも必要でしょうし、皆さんご存知の通りコロナウイルス禍の中で、従来の集会所に大勢の人が避難するっていうような話が出来なくなってきているという以上、避難先の個室化っていうのは重要なので、そのためにもしも相応の規模感というか部屋数は必要かなという風に思っております、私事となかなか申し訳ないんですが、今、道後温泉の老舗ホテルさんとアフター・ウィズコロナをどうするかっていう見据えたプロジェクトに入ってますね、進行中でございます。来月には、ゆすはらのジビエ、シカとイノシシですけど、使ったフレンチと中華のレストランをオープンさせていくっていうような予定で今、話をいま進めています。そういう意味でも先ほどお話ししたいわゆる地域間ネットワークということも十分構築していけるのかなと。そういうところから小池さんが言われた稼ぐということを念頭のおいでやっていけば十分、今のホテルというのはやっていけると個人的には思っております。すみません、以上です。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございます。今、それぞれ皆さんのご意見をお聞きいただきました中で、E さんからですね、同じく議会にもこの件に関する審議会がありまして、その辺の審議の内容がわかることがあれば教えてほしいというご意見があったんですけど、これ、事務局どうでしょうかね。

【大川課長】

来週25日に議会の特別委員会がありまして、その招集といいますか案内がありまして、そこに出席しましてそこで議会の方に確認しまして提供できる情報はですね、検討委員会の方にも提供させていただきたいと考えております。

【空岡委員長】

はい。これは議会の内容によりますので、できる範囲の提供をしていただけたらと思いますので参考にできることがあれば参考にさせていただけたらというように思います。皆さんからいろいろなご意見をいただきました。これをすぐにどうこうというわけではないですけども、一つひとつ整理をしていきたいという風に思います。それでまず、次第にも書かせてもらっていますけれども、この太郎川ホテルの存在意義、また提供する価値、今現在守るべきもの、進化させるもの、やらないこと等という風な内容とか書いてありますけれども、こういう観点からですね、太郎川公園、ましてやホテルの再生が必要ないというご意見の方はどなたもいないという風にお聞きしてますし、どちらかというんですね、現状の話の中では健全な経営ができるのであれば現状の規模でやるのがいいんじゃないかというような大勢のご意見のような感じにも受けとれますけれども、この検討委員会が設置されたもとの観点からいくとですね、町長から諮問もありますようにホテル、レストラ

ン、道の駅の新設の規模ということに対してやはり町民からですね、疑問を呈せられてそれに対してもう一度再検討してくれということでございますので再度ですね、規模については現在の規模が適正なのか、いやもう少し縮小するなら縮小した方がいいんじゃないかとかそういう観点でお考えをいただけたらという風に思います。それで今までの話の中で客室の数、そこへ泊まりに来る総人数のお客さんの数、それと一番の話題となっておるのはいわゆる結婚式場をするというその大ホール、それがですね、いわば必要になるのかどうかということに論点は絞られてくるのかなというように思います。その辺も含めてですね、これ小池さん。この点に絞ってですね、小池さんの考え方といいますか意見といいますか、ちょっとご意見があればお聞きしたいと思います。

【小池氏】

はい。宴会場ですね。

【空岡委員長】

はい。

【小池氏】

事実でお伝えしますと、弊社プラン・ドウ・シーって会社はご結婚式を年間で大体6千組くらいお手伝いさせていただいています。ご結婚式以外の法人宴会っていうのはですね、件数どのくらい、ちょっとわからないんですが50億くらいですね、お手伝いさせていただいております。このコロナのタイミングでご結婚式、一番最初の緊急事態宣言が4月ですね、あったときに4月5月6月7月はほぼゼロ件になったんですね。ご結婚式。まあそれはそうですね、できない空気みたいになって。法人宴会もちろんなくなりました。でもご結婚式自体は今9割近く戻ってきているんです。ほぼほぼ通常運転みたいな感じで。ただ、ご結婚式のご人数が、弊社、平均人数が大体均すと64名くらい。いろいろな地域でやっているのでも均すとそのくらいなんですけれど、それが20名くらい減るんです。平均人数が、20名っていうと単価でいうと50万くらい減りますね。だからトップライン、最大の売上が件数同じでも相当減っているっていう。だから20パーセントくらい最大値の売上が減っちゃってるのが結婚式の現状で、法人宴会に関しては通常対比の、結婚式は90パーセントくらい戻ってきてます。法人宴会は20パーに満たないですね。戻りが。おそらく法人宴会に関してはほぼほぼもう戻ってこないっていう算段を僕はしています。なので、法人宴会に携わっているスタッフをどういう風に仕事を次に回そうかっていうのは今、会社全体で腐心してやっているんですけど、よく考えてみてください。これは別にあっているかあってないか、変な意味で捉えないでいただきたいんですけど、今までのホテルだったりとか、法人宴会で呼ばれて嬉しいなっていう宴会、ありましたか、ってことですね。で、開催する方も、これはやりたいって言って開催する人って実際ほぼいなかったんですよ。幹事も。で、株主総会もそうですね。別に株主総会やらなきゃいけないからやるんですけど、株主総会はずすがに今やらなきゃいけないかもしれないんですけど、ほぼオンラインに移行してて、僕がコンサルティングに入ってたパレスホテル東京ってところは宴会だけで75億売上があったんですね。一つのホテルで。それが今20億くらいなんです。これはもう戻らない。なので、出る方も本当は出たくない、やる方も本当はやりたくないっていうことに気付いたわけですね、このタイミングで。で、これはいい機会だぞってことでこの宴会文化がおそらくほ

とんど戻ってこないと思うんですね。戻って3割くらい。ご結婚式はおそらく100パーセント近くまで戻ると思うんですけど、ただ市場としては毎年2パーセントずつシュリンクしてる、少なくなっているんで先細りの業界でございますね。だから、もしその宴会場を作るのであれば、法人宴会はもう絶対に儲からないです。って僕は思います。僕らはそういう風に判断しています。で、ご結婚式は儲ける、儲けるというところとちょっと、ちゃんと収益をだすんだったら、ご結婚式はやりようがあると思います。ただ、ご結婚式はチャペルを作らないと絶対に入らないです。チャペルを別棟で独立型で結構お金掛けて造らないと絶対に集客できないです。で、ご結婚式をするにあたっては、ソフトのオペレーションも相当大変です。僕らやっているからわかるんですけど。一つの会社では出来ないんですよ。お花やさんが入って、いろんな業者さんとか、あとお料理とかもただレストランの料理を出せばいいわけじゃないですよ。50人、特に高知だったら100名とかっていうコース料理をいいタイミングで熱々の状態で出すっていう設備とスキルとチームワークはとてつもなく大変です。だからご結婚式やるといういろいろご利益あると思いますけど、シュリンクしてくってことをご理解いただくと、相当覚悟が無いとやれませんよってことです。あとPR、販売促進費うちの会社のひとつの施設だけで1億5千万くらいかけています。全体でいくとおそらく60億ぐらいのPRの費用をかけて集客しているので、そういうコスト面での覚悟も相当必要です。というのが今の、どうしてくださってというのはないんですけど、宴会場を取り巻く状況としては決して明るくはないです。あとbuffetも今なかなかできないですね。コロナが完全にこう、意識としてなくなるということがあればいいんでしょうけれど、それ多分2、3年後の話じゃないと思います。もうちょっとかかると思いますし、インバウンドも今本当に戻ってくるかどうかかわからないって状況で、基本的にたとえばスキー場のニセコ、北海道ニセコですとか白馬とかもインバウンド戻ってくるよっていう戦略でもうやっていないですね。きっと戻ってくるんでしょうけれど、それに頼っていると大やけどをするので、どうやって国内需要で収益を生み出さかっていうことをニセコも白馬もやっています。ちょっとそれちゃいましたけど、宴会場だとそういう問題がすごく。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございます。それとですね、ちょっと私の方から確認というか、しておきたい点があるんですけど、会社として運営ができることが非常に大切と。これができなければ事業推進は無理というのが結論やと思うんですけど、その中でさきほどC委員さんも言われていましたけど、観光協会の理事を私も務めてまして、経営、運営についてちょっと事務局の方に聞きたいんですけど、ホテル経営といういろいろあそこにある温泉施設ですね、それがちょっとごっちゃになってというか、私とか理解しにくいところがあるんですが、あの温泉施設はいわゆる健康増進施設として作られたという風に自分たちは理解してまして、あそこのいわゆる温泉プールは学校のプールも兼ねて利用するというそういう施設であって、あそこで利益を出してやるような施設ではないという風に思っています。それでホテル運営は現在のいわゆる経営状況といいますか、これBさんがおられますんでこれわかると思うんですが、私がちょっと聞き及んだところによるとですね、ホテル運営だけを考えれば現状でも決して赤字ではないという風にお聞きをしています。それで、それに温泉であるとかそういう事業を一体として経理、運営費を出すとそこにある大きな運営費がかかるという

ことで、その総額が約2600万でしたかね、そういう風な状況が、町からの持ち出しが必要になるという風に聞いてます。それは間違いないんですよね。そう意味ではね。それでホテルだけで運営をすれば今の現状でも十分に利益は出ているというのが現状です。

【小池氏】

今、ホテル利益がでているんですか

【空岡委員長】

雲の上のホテルだけの運営で見ればね。その内容はちょっと詳しくわからないので、内容は構わない範囲で結構ですけど。

【I 委員】

それは最初に投資した国の補助金とかそんなものはいれちゃうんじゃないかね、収支決算に。

【小池氏】

あの、減価償却とかそういうのもちゃんと入れたうえでかってことですよ。

【I 委員】

単年度のなにでやったちよね、それじゃ黒字じゃないわえ。

【空岡委員長】

それはありますけど、まあちょっと、はい。

【B 委員】

はい、今、先に I さんから言われたことから先に言うと、減価償却は町の補助金の部分はしてないです。それで何年か料金を私たちが借り上げるときの料金というのを払っておる時代があります。何年か前から老朽化に伴い、それが今は0円になっています。今までは年間1200万円から600万円下がったかなぐらいな形でずっときてます。ただ、償却という面では多分全部出てないと僕は理解してます。ただ、これ勘違いしたら大変なのは少しちょっとへちな、ちょっとええですか。

【空岡委員長】

はい。

【B 委員】

今、梶原町、人口ががんがん減ってきちゃうじゃないですか。少子高齢化が進んで。今のままでは福祉も教育も、商売人はもちろんですけども、福祉や教育にすごい悪影響がでると僕は思ってます。今のままではそっちのお金も削らなくてはならないようなことになってくるだろうと。IターンやUターンの人らが帰ってくるような場所もなかなかでてこないんじゃないかなという風に僕は思ってます。今、私が小売店を経営してますけれど、学校の先生やお医者さんなんか、団体会長ですってあいさつしたち誰っちゃ喜んでくれるんですけども、小売店を経営してますって言ったら、もうおかげで助かってますみたいな話がよく聞きます。が、これもある程度の交流人口を含めての人口がないと、経営できません。なくなります。もう7時までしか梶原町は電気があいちゆう店はなくなります。やっぱ人口と交流人口、経済とすごく大事ながだなあという風に自分はすごく思っていて、そういう点で今、農業の売上っていうのが、歴代皆さんが頑張ってきましたけれども、2億円ほどの売上です。農業が。今、観光の経済効果って俗に言われるものに関する売上っていうのが5

億ほどあるんじゃないかって栲原町で言われてます。それはあの国、県によっても経済効果の出し方がちょっと違うので、言えませんけれども、そういう風に今あると言われてます。そういう面で、木も農業もこれからすごい大事だと思いますけれども、一方で観光もすごくやっていかないと栲原町はこれから成り立っていかないんじゃないのかなという風に自分はすごく思ってます。すみません、話がちょっとそれましたけれども。

【I 委員】

ちょっと。

【B 委員】

うん。

【I 委員】

僕がゆうたことはよね。

【B 委員】

うん。

【I 委員】

赤字か黒字かということを聞いたがよ。

【B 委員】

ほんで、今から、ほんで今から言います。今から言います。赤字か黒字かということは、単年、うちくでいうと黒字です。

【I 委員】

単年度よね

【B 委員】

はい。単年度黒字です。さっきゆうたように町の方の減価償却をするかせんかというところに入っていないので。うちくの方は。それを入れると行政が計算せんとわかりませんが、今までいくら施設管理料ということでお払いをしていた時代もあるので、いくらかは儲けてきてるのは間違いないです。はい。

【I 委員】

まあ、小池さん、官と民の違いみたいな感じもしゆうけんど。

【小池氏】

そうですね。じゃ、売上があってそこから原価引いて、間接費とか引いたところでいうと黒になっているということですね。

【B 委員】 経済効果入るとですね。黒字になります。

【小池氏】

おお。

【I 委員】

民間の経営じゃったらそんなこと考えれなね。

【B 委員】

いや、それはできん。

【I 委員】

できんろ。

【B 委員】

おっしゃるとおり。それはそう。

【I 委員】

まあ、黒字に見せちゃうみたいな感じにも。

【小池氏】

僕らその民というところの視点からしかご意見がお伝え出来ないんで、でも僕も第三セクターのお仕事をお手伝いしたことがあるんですけど、長野県の戸隠っていうところですね、スキー場、キャンプ場のお手伝い、キャンプ場は宿泊業みたいな分野なので。そこも地代とか建物建てたときの償却とかってのはちょっと抜いて、その上がですね、グロスオペレーションプロフィットといって、売上マイナス原価、マイナス人件費、マイナスもろもろ間接費というのがグロスオペレーションプロフィットって、これが黒だと、まあ僕は行政としてのホテルであればこれが黒だとまあいいのかななんて風に思ってます。本当はそこからこう、建物の償却したりとか、地代があればなんですけど、修繕積立金とかやんなきゃいけないですけど、それはまあいいとしてGOPってところは、黒にしてあげてねって意見としては思ってます。ちなみにですね、僕、勝手にシミュレーションしたんですよ。42室ですね、たしか。42室。結構細かく人件費あったの入れて、初年度で黒字に、GOPってところを黒字にするには、実はですね、単価がスタンダード2万4千。で、まあ一番広い2部屋ありますよね、6万7千円。で、67パーセントの稼働がないと、67.4パーセントの稼働がないとGOP黒にはならないです。まあ、いけない数字じゃないです。あの、そんなに簡単ではないですが、ちゃんと商品づくり、まあ、隈研吾さん、ちなみにちょっと大丈夫ですか。隈研吾さんの建築だからってホテルに泊まりに来る人はほとんどいないです。建築好きの人はホテルに泊まろうとしないんで。だから隈研吾さんの建物って素晴らしいと思うんです。ただそれを全面に商品として出すのは賞味期限本当に早いです。なので、建物自体は絶対素晴らしいし大事にした方がいいんですけど、その中のソフト、隈研吾さんって、なんなら言わない方が長持ちする可能性があります。僕はそういう風に思っていて、絶対建物自体素晴らしいんで。ただ建築マニアの人は泊まらないです。それは。先ほどおっしゃったようにお金を落としていかないです。ちょっとごめんなさい、それちゃいました。ちょっと僕もかなり厳しめな数字で出してるので、リアルな数字出してるんで、一旦シミュレーションはこんな感じ、うちの会社の視点でやると67.4パーで平均単価が20,698円っていう。でもこれを正解にする方法は別にないわけではないので。それを考えていけたらすごく楽しいんじゃないかななんて思います。

【F 委員】

一部屋で。

【小池氏】

そうです。一部屋42部屋の販売単価が20,698円。平均で。

【F 委員】

食事つきですか

【小池氏】

これは、食事をですね。

【F 委員】

すみません、勝手に聞いて。

【小池氏】

ええっと、入れてないです。素泊まりですね、これは。素泊まり。これに食事を入れちゃうと原価変わっちゃうんで。だからもうちょっと稼働を上げないといけません。でもこれ、赤のシミュレーションなんで、僕の知らないところもあるので。人件費とかは想定いただいたものをそのまま入れたりとかして、PRの費用とかある程度入れたりとか、OTAっていった一休さんとかじゃらんとかそういったところの割合も、うちの会社の割合の販売数でやってるので。あと割引率とか。なので、それちょっと違うのかもしれませんが、割と厳しめな数字で見て書いてみました。でももうちょっと稼働低かったりだとかやりようはあると思います。

【K 委員】

逆に質問していいですか。

【小池氏】

はい。

【K 委員】

小池さん、今のお話だと、要するに多分ざくっと食事も含めて一人当たりの客単価っていうのが大体3万後半から4万前後ぐらいなんですか。

【小池氏】

そこまでいかないと思いますね。均すと20, 698円なんで。2万5千円とか。食事をインすると。

【K 委員】

まあまあ少々高級なもん食べると3万ぐらいの。

【小池氏】

そうですね。

【K 委員】

という話ですよ。でも今大体どうなんですか、全国的にまあその名前の知れてるリゾート地であったりとか、俗にいうあの星野さんところに代表されるようなああいう施設のところの客単価っていうと食事も含めていうと大体そのぐらいのレベル。

【小池氏】

はい。余裕で超えますよ。星野さん多分7万5千円ぐらいなんですね、一人。特にシーズン入って本当にびっくりするニセコのスキー場行くと、一泊20万円とか。一泊20万で7泊からしか借りれませんみたいな、です。で、食事なしですね。コンドミニアムなんで。年末年始はワンエルみたいなお部屋で15万円くらいだったんです。相場が。ニセコとかだったら。それで予約取れないです。来年

まで取れないです。とか、白馬も今、一泊70万とかつてのもでてきてますし、ちょっとね、おかしいことが起きてるところもあります。

【K 委員】

現実的にそれは一部、まあそれは大部分ではないでしょうけど、一部とはいえやっぱり今、国内だけの需要で考えてもそういう層ってのは存在しているわけですか。

【小池氏】

はい。存在します。でいうと、ビジネスホテルが多分もうほとんどなくなると思うんですよね。あの、移動がなくなるじゃないですか。オンラインが。出張レスで、出張が5分の1くらいになったりとかするので、ビジネスホテルってほとんどこうやばいことになってくると思うんですよ。そのホテルが目的の地になるようなホテルは生き残っていける。むしろそうじゃないとホテルは多分もう生き残っていけないので、なんなら僕2万5千円って単価も安いと思います。安すぎると人は来ないので。そのわざわざ、例えば、ターゲットが県内、海外のある程度の富裕層だとすると、そうじゃなかったらまた話が違うんですけど、わざわざ、あえて言うと、高知空港からかなりの時間がかかるんですよ。なので、やっぱり高知の中でもわざわざ来る場所なんですよ。わざわざ来る場所に1万7千円のホテルがあっても、なかなかこう、行けないですね。高いかっていう層もいれば、違う層もいるかもしれないんで。そこはやっぱりなんのためにつくるか、誰をお客様にするのかということをどっかで決めないといけないですね。

【K 委員】

おそらく、今、町民の意識としては今小池さんがおっしゃったようなごくごく一部の層ではあるかもしれないけれども、本当にその一泊20万もするようなコンドミニアムが予約が取れないとかってこういう状況があるとかっていうようなことを、多分、今の町民の皆さん残念ながらほとんどご存じないと思います。だからおそらくいわゆるビジネスホテル、こんなこと言うたら怒られるかもしれないですけど、ビジネスホテルの感覚、一泊せいぜい1万円かな、1人泊まるんだったら、6千円とか8千円だよなとってかいていうようなそのぐらいのレベルで物事考えてると、多分、今の現計画のホテルってすごい話になってくる、ものに見えてくるんじゃないかなという風に思ってます。

【小池氏】

その単価で戦うっていうのも僕はありだと思うんですよ。でもその単価にするんだったら客室数が少なすぎる、っていう感じですね。さすがに42室で1万円の単価だったら相当稼働があがらないと、あと人を削らないと難しいと思います。

【K 委員】

でも今、世の中の動きって、部屋数増やすよりはできるだけゆったりとした部屋でおいしいご飯を食べて、その分それに見合った高い、少々高くてもいいから宿泊料を払うっていう流れになっていません。

【小池氏】

流れはいろんな流れがあるので。何とも言えないですけど、そういうホテルで成功してるホテルがたくさんあることは事実です。例えば修善寺のあさば旅館とか有名なところ言うと里山十帖っ

ていう新潟の魚沼の本当になんだここはっていう辺鄙なところに、しかも大して、さして建物としてもお金がかかってないんですよ。古民家を改造して。そこも1泊7万くらいで、何がすごいってお料理なんですよ。しかも肉出さない。山でとれた山菜しか出さないですけど、それでこの単価とれてる。のでやりようはあるんですよ。42室にするんだったらある程度単価とらないといけない、単価とるためにはどういう方法があるのか、その単価に見合うだけのサービス、コンテンツをどういう風にすればいいのかってことを後付けにしていってという感じですね。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございました。小池さんの話を伺っていると、今の時代と言いますか持続的ないわゆるお客さんに満足してもらえるようなそういうサービスも含めた形で客単価の高いそういう運営をしながらお客が呼べる、そういう形のものが需要だという風な感じがお聞きをいたしました。そうするとスタッフであるとかですね、料理人でも腕といいますかいわゆるレベルの高いお客様サービスができるような体制づくりも非常に重要であって、そのところも非常にこれからスタッフも集めていくということでしょうから、いわゆるこうハードルが高いなという思いもしなくはないんですけれども、聞いてみてみなさん何かご意見ございませんかね。どんなことでも結構です。

【J 委員】

前にホテルのあれの入札といいますかね、入札行ったんですけど、その時部屋を見せてもらったんやけど、もらったっていうたってずっと入れたんやけど、まあそれ見てびっくりしたな。隈研吾が建てたって普通のバラック、それはまあ解体に近い状態やからな。それまでにも何回か修復してってあれやろうと思うけど、まずお金出して泊まろうと思わなかったな。やっぱりこれからは本格的に小池さんも言われるようにお金をとれるようなものにするんやったらやっぱりもうちょっときちったしたな。今度出来るのは素晴らしいと思うけど、やっぱり部屋は憩いの場になるんやから。お客さん来たらね。ほとんどの時間を部屋で過ごすんやから。やはり若者にはそれなりのところを、そしてお年寄りにはそれなりな部屋をぐらいはちゃんとしてやらんとやっぱり橋原の良さがでてこんじゃないかなと思いますけどね。

【小池氏】

あの、これはちょっと業界としては割と、隈研吾さんは建築家で建物はものすごい素晴らしいですよ。＜47字削除 ホテル設計についての私的見解を述べる。＞

【J 委員】

そうやな。

【小池氏】

躯体は素晴らしくやります。＜185字削除。ホテル設計についての私的見解を述べる。＞

【J 委員】

あの人もセンスで飯食いゆう人やからな。そらもう、建物の中のとかそんながまで目が行き届かんとと思う。建物外観、もうそりゃすごいと思うけど。これらもそこらへんのない立派なもの作るけどな。やっぱり内装なんかは専門のそれ専門の人にな、せめてお金使ってやるんやったら。もう素晴らしいもんをして、また素晴らしくお金をとれる方法を考えたりとか、やっぱりみんなでもう一度おん

なじことを繰り返さすのではあかんのちゃうか。それから、若者は若者の部屋を何個か作ってやって、ちょっと入口変わったところから入れるとか、やっぱりそういう方法らもいろいろ考えて、ただ呼ぶじゃなしに来てくれた者に対して気持ちよおに対応できるくらいなな、は、していかないかと私は思います。

【K 委員】

小池さんに逆にお聞きしたいんですけど、今、小池さんの、私、断っときますけど別に隈研吾フリークでもなんでもないんで。

【小池氏】

僕好きですよ。

【K 委員】

いや、僕は嫌いじゃないんですよ。ただ今のお話で行くと多分このままの、今のままの状態でいくとおそらく設計の主体は隈研吾さんの会社。

【小池氏】

いいと思います。

【K 委員】

研吾さんの会社で設計していくと思うんですよね。だからそこに今の小池さんのご意見だと例えば内装であるとか調度品の設えであるとかそういうところについてのいわゆるスタッフの選定というのか、まあまあその業界では名前の知れた著名な方に入っていて、ある程度こう分業化していった一つのホテルを作り上げていくっていう手法も必要かもみたいな話になりますかね。

【小池氏】

おっしゃるとおりですね。ディレクション、ディレクターが入った方がいいと思っていて、それは別に有名な方じゃなくてもいいと思います。高いんで。なので、若手でいい人いっぱいいるんですよ。僕も何人か知ってますし、やっぱり木って言う構原の大事なものがあるんで、やっぱりその木に強かったりとか、木の内装とか家具とか、そういったところのストーリー作りが上手な方を入れられるのがいいんじゃないかなと。

【K 委員】

だから逆にすみません。観光協会の局長がいらっしゃるし理事の方もいらっしゃるんで、逆にお尋ねしたいんですけど、そのあたりについてのいわゆる設計、当然、依頼は受けていったらしょうけど、チーム構成みたいな話とかっちゃうのは、具体化しているような状態なんでしょうか。それともまだ真っ白。

【来米事務局長】

観光協会の来米です。えっとですね、今、設計については実施設計として2億ぐらいでお願いをして、その中で昔は確かに隈さんがそういう風に一元的にやって太郎川のホテルについても東京の会社に頼んで、中のそれこそあの時、シートの色、シーツの色をどうするかっていう話になったときに、隈さんが出てきてこの色から選んでくださいって言われたときに、隈さんが私のできない色なら帰ってくださいみたいなことを言って、そういうこだわりが結構あったんで、それがちょっとマ

イナスの面に出たこともだいぶあるんですよ。今回はそういう風にチームになってまして、隈さんの設計の中に家具を得意とする人とかそういうところがいろいろとおるんで、そこはそこで分業してやっていただくようにする。それと、施主は構原町ですので構原町がええというものはいかんということではできんはずなんです。そこをしっかりと見るために私がおるという風に思ってますので、責任持ってそこはやっていきたいという風に思います。それとさっきの太郎川の今のホテルなんですけど、Iさんが言ってたんですけどあれ建てたの6億3千2百万で建ててるんですよ。で、そのうち補助金がね、2億8千1百万、残りが3億5千1百万なんですけど、そのうちの7割ぐらいは過疎債で実際に町へ返ってきてるんです。実際お金を出してるのは1億ちょっとなんです。その1億ちょっとというのは家賃で全部返ってきてます。1億7千万くらいもらってますので。その家賃としては。その分は実際は町としての持ち出しは全部取って返ってる。それが構原町がホテルを建てる意味になってくる。民間では絶対こういうことはあり得ませんので。28億ですけど今、実際出すのは15億っていわれてますので、そこをぜひ考えていただきたい。

【I 委員】

よいよの黒字になっちゅうということか。そこをPRしてよね。ひょっと今、赤になっちゅうということになったらもう絶対みんなそんなもんやめちよけというなにあるけよ。ホテル建てるよりお前、葬儀場建てたらええじゃないかという意見もだいぶある。

【空岡委員長】

そういう皆さんの意見を聞きながらですね、一つずつそういう疑問と言いますか知らなかった点をですね、こうやって皆さん知っていただけたということもあろうと思いますんで、本当にこう素朴な疑問で結構ですので意見を出していただいたらいいんじゃないかなと思いますけれども。

【F 委員】

はい。

【空岡委員長】

どうぞ。

【F 委員】

それじゃあ回収が出来てる。ホテルはもう一応回収ができてると。

【空岡委員長】

ホテルについてね。

【来米事務局長】

建築については。修繕なんかがいってますので、それはね。

【F 委員】

単年度いけてるっていうことやったら、一応なんていうんですが、期待した経済効果がどれくらいやったかってのはちょっとわからないんですけど、一応失敗ではなかったのかなと。こうして話、次につなげてるのかなと思えるんですけど、そうするとさっき小池さんが言っていたみたいに、どうしたいのかってところで今、規模についての話をしてると思うんですけども。巷で不満を聞くと、やっぱり評価が悪かったってところ、評価が悪かったっていうか隣の音がうるさいという点です

よね。それが、なんというか梶原の沽券に関わるというか、そこにすごくみなさん不満に思っている。あと建て替えの年数が早いと感じている人が多い。だから、もう経営能力はあるんだと、回収できてるんだから経営能力はあるんだという前提から、どんなプランでも回収は梶原町はできるんだと。前提から考えたらやっぱりもう一回、もしこのプランに不安があるんだとしたら、それは規模とか金額の話にまとまっちゃってますけど、どっちかっていうとさっきのお話みたいにどういうホテルにしたいのか、多分人によってはそんなに、僕は稼ぐことが必要だと思うんですけど、稼ぐことよりも前提としてかもしれないですけど、誇りになるようなもの。例えばじゃあ次の建物は100年くらいもつホテルにするんだとか、それをコンセプトにしていとか。今回、今までのホテルは隣の音が聞こえて居心地がよくなかったから、とにかく居心地のいいホテルにするんだと。それを前提に回収できるプランを立てるんだとか、なんかそういう。僕が聞いているのは改修が早いのと音が聞こえる、ほぼこの2点にばかり聞こえてくるので。改修が早いっていうのは、なんかすごく傷ついたっていうか木の町って言ってきた自分達のところのホテルがこんな早く建て替えなんて、それが早いのか遅いのか僕ちょっとわからないですけど、やっぱり早いって感じてるってことはもっと長く使えるものにすればいいんじゃないのかな。だからもしかしたら回収できるので、むしろこれにさらに予算をのせてもっと長く持つホテルにしたらしかしたら納得される方も増えるのかなと思ったりして。やっぱりどういうホテルにしたいかというところについて話し合いを進めるのが大事なのかなと思います。

【空岡委員長】

そうですね。たしかにあの私共も町民の皆さんから、20年で建て替えというたしかに通常の建築から考えても、私どもは素人ですけど20年で壊して建て替えというのは、建物というのはそう感じだと思いますし、隈研吾さんがはじめていわゆる木造ホテルを設計したということもあってですね、たしかに今、小池さんが言われたようにたしかにこう完璧なものではなかったという感じを私も最近、中を見せてもらったんですけど、まあ家具も何もないような状況ですので余計にバラックには見えたんですけど、たしかにこれやったら隣の騒音が聞こえたんじゃないかなという感じはしました。次も隈事務所をお願いすることはこれは決まっているということでございますので、そこはですね、施主としてしっかり監理監督をしていただいていい建物にしてもらわんといかんのじゃないかなと、その点については思います。それと経営ができるできんという話ですけども、私、先ほど言ったのは今までのホテルの話であって、あるいは今度作るホテルの計画みたいなことは宿泊の人数、そういうものが町民がちょっと心配しておるのは、ホテルができて3年5年はたしかにみんな来ていっぱいになるやろうと。それでも将来に渡って10年20年と、いわゆる利益が出るような集客が本当にできるのかゆうようなことの話もございます。それは100人のお客さんを呼ぶのと50人のお客さんを呼ぶってのではずいぶん全体的な考え方も違うくるんでしょうけれども、それが結局、部屋数にしても宿泊人数にしても適正なのかどうか、この梶原でホテルを町が運営するなということ。そういうところも町民の皆さんが非常に心配をされちゃうことであって、それに対して諮問の方をいただいておりますけれども、それに対して委員会としても答えを出す必要がありますので、その答えを出すにおいては、やはり何を根拠にそういう結論になったかということも

非常に大事なところがありますので、そこをですね、本当に意見を出し合いながらですね、見つけていきたいという風に思いますので、どうぞですね、みなさんの忌憚のないご意見をですね、言っていただきたいなと思います。

【D 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

はい。どうぞ。

【D 委員】

さっきの話でホテルのお金よね。確かにこの間からツアーが来るんですけど、高級志向のお客様は部屋料7000円とかそんなホテル、うちは定食なんですけど、なんだこんなものなの、そんな奥様方っていうのはお金を出す、その金額聞いてびっくりしたんですよ。ツアーの料金が百何万とか。すごい、すごいそういう、そのね、その観光会社がそういうところもあるんですよ、最近。びっくりするんですよ。それで東京発でそんな人もいる。一方、橈原町の人達で家を失って遠くに出た人が例えば墓参りに帰ってきたいというときに、やっぱりホテルを使いたいんだけど、ホテルが高すぎて入れないっていう感覚ですよ。それで高級ホテルの人はね、添乗員さんがね、ずっと電話するから何を電話しよったかっていうとお客様が今夜のおかずになんかの貝は入ってますか、それだったら食べれませんとか、そんな内容してらっしゃるんですよ。で、高級な人が泊まるということになればそういう対応がきちっとできるのかということと、それから一般の人たちがやっぱりその身近に使えるホテルにするのか、目的がどういうホテルにしたらお客様のどういうニーズに応えられるホテルにしたいのか、そこが私らにはここの中では見えないところがあって、私たちはできれば家のない人たちが帰ってきたときにほっと寛げるようなちょっとそういう空間で家族がちょっと滞在してやれるようなところもあってほしいと思う。逆に観光客が来たときにやっぱり橈原は自然がもうすごく素敵で、この間、黒川温泉に泊まってきたんですよ。そんなにびっくりするようなホテルじゃないんだけど、金額はいいんですよ。でもね、おもてなし、あの、いらっしゃいませ、ウェイターさんはいらっしゃいませようこそ、なんかその、こぎゃんところによう来たねとか、なんかそういうちょっとした心遣いのホテルのやり方っていうのがあって、一概に高級なホテルどうこうではなくて、高級なお金だったんですけど、もっと高級なところばかりでいいですね。ただ景色もすごく良くて、もう今、もみじがきれいだと歩くと本当に生き生きとしてくるような、そんなやっぱり街場の雰囲気を作っちゃうんですよ。だからそのホテルと周りの生業というか、言ったように太郎川公園をどうするかっていうのもあると思うんですけど、子どもさん連れをやるのか、家族連れをやるのか、その辺の視点をやっぱり定めないと、なんか、やっぱりこう、このままいくとわからないなというところで。両方をやれたら一番いいと思うんですよ。高級な部分と一般の人が泊まれる部分っていうのがあると理想的だなと思います。

【空岡委員長】

はい。

【K 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ

【K 委員】

はい。今の D さんのお話聞いててあらためて前の雲の上のホテルを思い出したんですけど、結局、関係者の人に申し訳ないんですけど、レストラン作りたかったのか、ホテル作りたかったのか。だから小さなミュージアム行ったときにその当時の模型とか作った写真とかいっぱいあってそんなん見てたりとか印刷とかずっと見てると、本当に多分、施主側の要求もどっち、あれもこれもあれもこれもって言って詰め込んだ結果があの中途半端さになって、レストランメインなのかホテルメインなのかぜんぜんわからないみたい。で、そのトータルの費用が6億、そりゃ壁も薄うなるんやろうなという。温泉とかいわゆるお風呂もテント張りで入とつたら上から結露した水滴が落ちてきてゆうような、そんな話になるんやろうなっていうところは思いました。だから、私がこんなこと言うとまた怒られるかもしれませんが、隈研吾さんにしても多分、一刻も早く消し去りたい作品やったんやなかったんかなと思うんですけどね。だから、D さんがおっしゃったみたいに、本当にそれはみんなが納得できる建物、ホテルになりやいいんでしょうけど、たぶん逆にそれやるとまたブレが生じて。

【小池氏】

そうですね、はい。

【K 委員】

で、どこへ向かうのかわからないとか、建物自体もなんか上層階、下層階はいわゆる普通のなんか一般的な感じになってるけど上層階はすごいラグジュアリーな感じになってるみたいな感じになると、多分レギュラーの普通のお客さんにも嫌われるし、ましてやその1回の旅行で100万使おうかなんていうような富裕層の人らにはもっと嫌われて、本当にまた同じ轍を踏むような気がする。そしたら逆に言うと本当にどっち狙いでいくんですか、富裕層、もうほぼほぼ中から上狙いのそれなりのいわゆる宿泊料金とってやるのか。そうじゃなく一般的な安い値段でやるのか。前者の場合ですと多分それなりにおもてなしとかなんとかいろいろ考える余裕が出来てきて、言葉は適切かどうかかわからないですけどゆったりとした、運営する側も泊まっていく側もゆったりできるし運営する側も余裕もってゆったり運営できると思いますけど、後者になると多分がつがつやらんと絶対回らんようになるんで、みんなしんどい目におうて、そのうち何年かやるうちに誰もいなくなったみたいなそんな感じになりそうだなと、私は気がします。どうでしょう小池さん。

【小池氏】

おっしゃる、何をやるかを決めるときには一番大事なのは何をやらないかを決めることなんで、幕の内的にやろうとするとおっしゃるとおりです。

【空岡委員長】

B さんどうぞ。

【B 委員】

あの、今壊しかけた、僕も毎日行ってますけれども、今壊しかけたホテルとか、本当に壁が薄くてさっきから話に出てましたけれども、さっきのお風呂の話も冬場ではなかなかあそこで裸になるのが辛いぐらいのところがKさんが言われたようなところでした。それでクレームも現場にもいっばい上がってきて、ただ建物はなかなか直せませんので、苦労したところです。ただ、隈さんの第1号ということで足らんとところが本当にただ多かったんだろうなとすごい感じたところでした。本人に、言葉が悪いけれどもノウハウがほとんどなかったってということなのかなという風に思ってます。ただ、その後、マルシェが隈さんに建てていただきましたが、マルシェの内装等に関しては大変高い評価をいただいて満足をされているところがあります。もちろんWi-Fiとかいろんなところ足りませんけれども、足りないところまだありますけれども寝床にコンセントがないとかいろいろありますけれども、細かいところは。おおむね高い評価をすごいいただいているところです。ゆったりと過ごせるし部屋も広いし、いいなあいう風に言っていていただいております。その点で隈さんも成長しているのかなあとということでさきほど来米局長の方からも話がありましたけれども、そういう形で今、今度のホテルはなっていくんかなという風に思っているところです。ただ、さきほどからどんなホテルを目指すかというときに、例えば3万円1泊、私もこれはいかんけってということで、宴会は何回もあそこでしたことあるんですけども、食事、宿泊者の食事をしたことがすごくなくて、一回宿泊者の食事もちょうどお客さん、友人とからが来たときに、いや、俺も一緒に飯は食うわということでおんなじ食事を出してくれということで出していただきました。そういう点でいうとしっかりしたものが出てきたのかなあと思ってますけれども、これからを考えたときには一泊二食を例えば2万後半から3万円が普通みたいになんて思ってますけど、実際、梶原の人達がそういうホテルに何回も泊まってるかというとはとんどないわけですね、私も含めてですけど。3万円一泊二食のホテルにいつでも行きゆうみたいな人はあんまりなくて。なかなかそこがわかりにくくて、そういう点で今度のホテルっていうのは先ほどF君も言われたけれども、町民がちょっと自慢でできなかったホテルなんよね、今ね。クレームもあったりして。やっぱり自慢が出来たり、誇りに思えるホテルにするのがすごい大事なのかなと一つ思ってます。もう一つ考えないといけないのはこれから人口が減ってる中で人を、あそこで働く人っていうことが、梶原の中だけで構えられません、と思います。土木も林業も何もかもが今、人、働き手が担い手が足りません。そういうことを考えたときにある程度そっちにお金も回せるようなことのホテルを作っちゃかないと従業員確保、質も含めてですけども、先ほどから言われているように確保が出来ないのかなという風に思ってます。そういうことも含めて値段設定、狙いっていうがをつけていかないとこれからは大変になっていくのかなという風に考えるところです。以上です。

【空岡委員長】

はい。いろいろなご意見をいただきました。確かに雲の上のホテルのいわゆる客層、そこをどこレベルにターゲットをおいてやっていくのかというところは本当に重要なポイントで、その目的をはっきりさせておく必要があるんじゃないかなという風に思います。そのことによって宿泊の数も変わってくるでしょうし、営業戦略も変わってくるでしょうから、そこはですね、これは、私どもというよりも今まで町がやってこられた執行部の考えがあるなら事務局の方がですね、どういう階層を

ターゲットとして計画をしておるといふかそういう点が回答が出来ればちょっとお聞きしておいたらいいかなと思いますけど。

【来米事務局長】

みんながいろんな委員をやってますんで会長なんかは理事もやってますんで、その、ここには誰一人プレーヤーがおらずにその議論が進んでいるというのが非常に私は怖いと思ってて、どういふ階層がよってここで言っただけ指定管理を受けた人がそれをやらざったら何の意味もないわけなんですよね。その議論がちょっと一緒になってるのかなって感じがして、ここで決まってきたものを指定管理としてこれで運営をしろという風に観光協会に投げられたってうちがそれを手を挙げるかどうかは理事会で決まるわけですから。そのところがなんかごっちゃになって、それをたいい町が運営するならこの議論どんどんやっていけばいいんですけど、そこがどうなのかなという感じがしますけど。階層についてはですから、その、ものが決まらないうちになかなか決められないかなところもあるんじゃないかなと思います。

【空岡委員長】

それちょっと議論が白紙に戻るというか、今までの経緯の中で一定いろいろ町民が思った疑問に対しての委員会ですんで、それまでの過程を自分なりに考えていくと、町が建ててそれを観光協会が運営をするという前提の下において観光協会も設立をされてよね、そして今のこの話が進んでいる状況ですんで、そしたら実際に、この検討委員会が出た結論がこれがすべてその通りいくというわけでは当然ないんでしょうし、議会の方も審議されてますし、その結果によってまた執行部が計画を立てて議会に対して提案をしてくれることになるんでしょうから。ここで出た話の中で、話の内容によっては観光協会が受けるか受けんかとかいうことはわかりませんよという議論になってくると町民はちょっと待ってと言いたいような気がするんですけど。それやったら何の話もできないよ、いう風な。これ事務局が産業振興課ですよ。産業振興課で、まあ観光協会、来米さんが観光協会の事務局長さんですけども、私が言うのも、私はわかりませんが、仮にこれは観光協会の来米が中心となって書いた計画かもしれませんが、それが仮に変わった状況でいくと、観光協会としてはそれは委託として事業はするかどうかはわからん、そういう議論の余地があるということかよ。え。

【K 委員】

委員長よろしいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K 委員】

あの、すみません。今、事務局長のお話を聞きながら、皆様のご意見を聞きながら、多分、全町民ってちょっと強引にこの雲の上のホテルの新設計画に関して言うと、3グループ位に分かれるかなという感じがしてるんです。私個人的に。で、一つのグループは、何があろうが絶対反対、何十億かけようがもう何千万で終わろうが絶対反対みたいな話と、で、少なからずもここにいるメンバーの皆さんは今日、小池さんのいわゆる業界の内部とか、それこそ一泊20万もするようなコン

ドミニアムがもう全然予約が1年先も2年先も取れんような状態になってるよというような業界的な話聞いて、ああそうなんやみたいなちょっと勉強もできますけど、ほぼ少数、こっちも少数。で、大部分の人たちは本当何にもわからん、なんかここで月に2回くらい集まって話しよるけどなんにもわからんから多分、皆さん委員の人のまわりの人にああやこうやって、なんやどないなってんねんこうなってんねんって話聞いてくるのかなあという気がするんで、どうなんでしょう。私の個人的な意見ですけども、この委員会自体としては委員会として肅々として進めていくんですけど、観光協会事務局長、例えばですよ。来年ね、小池さんとか小池さんのご同業者の方とか、あるいは松山の道後温泉なら道後温泉でやってる経営者とか、それは高知でもいいんですけどね。どの候補を4人か何人か集まって本当にシンポジウムの説明会をやれば、多分興味のある人とはダーツと集まってくる。町民はそこを一番聞きたい。今、皆さんがそんな豪勢なホテルを作って大丈夫かとかって思ってる人も今のいわゆる業界の方向性っていうか、今の方向性ってこんなんですよって。さっきの話じゃないですけど、一泊何十万の部屋が何年先まで埋まって、やり方次第でこうなっていきますよとかっていうようないろいろな話が聞ければ、それなりの理解が進んで、それを逆に聞いて、例えばJさんの知り合いがちょっとこう思ったんやけど、委員会で聞いてきてくれやとかどうのこうのとかって言って話がどんどん盛り上がってきそうな気もするので、一つそんななんか、説明会、今まで過去開かれた説明会っていうと大体行政としてこんなこと考えてますよ、あんなこと考えてますよってただ資料見て説明するだけやったんですけど、そうじゃなくて本当に今ホテル業界の最先端で経営されている経営者の方のご意見っていうのを一回町民が聞けるっていう場を設けたらそれなりの理解はだいぶ進んでいくんじゃないかなと。それでも100パーセントには多分ならない、先ほど申し上げたとおり反対する人は絶対反対するぞって意思のタイプの人もいるんで。そういう風にしていくといろんな意見がそれぞれの委員のもとに届き始めて、この委員会も、この間、Dさん、こんなこと聞いたんやけどどうなんですかとか代わりにね、ここで言えたりとか。

【D 委員】

でもよ、ホテルだけに特化して住民の人がどうこうではない、ホテルが、ホテルはなんのためにということは経済効果も出したいしとかよね、そんないろんな意味を含めてホテルというものがあっていいと思うけど、ホテルにそればかりにホテルの説明ばかりに住民集めたら余計私はいかん、もういいんじゃないか。意見はいっぱい聞いて。

【K 委員】

ホテルの説明というよりも、今はおかれているいわゆる日本、いわゆる旅行の。

【D 委員】

けど旅行行かん人はあんまりそんなこと聞いてもね、多分わからんと思うがよ。ほんで私はね、大体、委員会自体がどうこうでないと思うけども、住民の意見をいっぱい聞いた上でプロの人がある程度こうやってくれたらそれでええんじゃないろうかと私は思いよったがよ。逆にね。あとはもう住民の人らにはホテルだけで構原がやっていくわけじゃないので、住民たちのそのホテルをきかけにいろんな福祉とかそういう風にそういった説明をしていけば経済効果を出すにはやっぱりこ

れがいるんだというようなそんな説明は、わざわざやるんじゃなくてその議員さんだとか各区だとかね。そんなもんでできるんじゃないろうかと思うが。私ら言われんけど全然わからんで。なにがこればあがメンテナンスこうこうこうとかって知ってる人はいいいんだけど知らないのですね。それはプロが進めてもらうほうが。意見だけ私たちは言う。

【空岡委員長】

はい。

【H 委員】

かまいませんか。

【空岡委員長】

どうぞ

【H 委員】

今の話を受けてなんですけど、私、前回の委員会があった日に議会の特別委員会の傍聴に行ってるんです。その時に道後プリンスホテル執行役員本部長の織田さんの講演といいますかね、お話だったんです。その時の資料を私はいただいているんですけど、私、実際聞きまして素晴らしい内容だったんです。是非、委員の皆さん、この場にいる皆さんには町民の方どんな意見の方にも聞いていただきたいようなそんな風に感じた講演だったんですね。今、シンポジウムの説明会をという話をしてくださったんですけど、織田さんに限らずさきほど言っていたような小池さんたちを含めて、そういう話し合いの会をもって町民に十分な説明が行き届いていないと感じている町民の方がいるので、やっぱりそういう場を設けて、やっているっていう気持ちですね、気持ちや姿勢を伝えるっていうのはすごく大事になってくると思います。はい。また、個人的には今回、低老築化に至った原因をデザインした隈さんや建設会社の方からは説明はあったんでしょうか。説明も求めましたか。何が原因だったんでしょうか。謝罪もされましたか。そういった、その上で新たなホテル建設に取り組むべきなんじゃないかと思わせていただいたんですけど、そういう風を感じています。

【空岡委員長】

はい。今またご意見が出ております。今、H さんの方から議会の方での委員会での話をいただきました。私はちょっとその時出席をしてませんので、内容としてはよくわからないんですけども、皆さん、委員会の中ですね、そういうご意見も聞いてみたいということであれば、どなたか適当な人をですね、小池さんはおいでいただいたので、時間を取っていただいてこの内容について話を出してもらっても結構なんですけれども、そういう道後の人だったりどうかというご意見があればですね、何回か会がありますので、早い時期にやるのも一案かなという思いもしますけど。なかなか町民を対象に今からやるというのもこれはちょっとなかなかそこまでは事務局も大変かなという思いもしますので、ある程度そういう中で話を聞いていきたいということであれば、コーディネートをしていただけたと思いますので。

【小池氏】

今のおっしゃったのは集めたりは大変だみたいな話も入ってましたか。それは関係ないですか。

【空岡委員長】

それもどんだけの人に来てくれるかもわかりませんが、なかなか時間的にですね、年末を控えてなかなかそこまでできるかなという思いも。

【小池氏】

やりようは多分結構あって、オンラインでやったりとかオンラインでやったものを参加できないタイミングもあるんで録音しておいて質疑応答とかも含めて配信、どこでも見れるようにするとかっていう。オンラインとかだったら多分、開催はハードルは下がると思うので、例えばSNSのアカウントを使うと無制限で見れるんですよ。あのズームとかだと大変ですけど、インスタグラムで説明会をやるとなると1万人くらいとか多分見れるんですよ。インスタグラムやってない人も多いかもしれないですけど、ただいろいろやりようはあると思うんで。僕はもちろん貢献できるところは貢献させていただきますのでおっしゃっていただければと思います。

【D 委員】

そういうのを使えない人たちにどう伝えていくか、インスタとかもうみなさん、そういうのが慣れている人はいいですけど、要はそういうことが出来ない人がメールもそういうのも見れないし、情報が見れないって人がいるじゃないですか。そういう住民の中でそういう人たちに説明してあげないといけない部分があるんじゃないか。

【小池氏】

それはやっぱりリアルな場を設けるしかないですね。ただ両方やった方がいいと思います。

【D 委員】

うん、そうですね。

【J委員】

梶原町の人みんなラインした後に電話するぐらいの人やからな。本当に。

【空岡委員長】

たしかに説明会も何度か町の方も説明会を何度も開催はしていただいて、たしかに参加者がどの程度あったかというのはそこまで把握してませんが、やはりわりあいこう少なかったんじゃないかなという思いもします。そんな中で計画が進むにつれて、ある程度いろんな形で疑問を持たれた方がいろんな形で声を上げてきたということで現在に至ってますので、なかなか最初からというところもこれで大変な作業になってくよ思いますので、もう既に町民の方は内容についてはよくご存じだと思います。それで、それについて町の情報が今一度再検討して、町民の皆さんにいわゆる説明不足あったところをしっかりと説明をして町民の皆さんにお願いをして進めたいというようなことでございますので、これからなかなか後戻りしよっては大変時間を経過するだけだと思いますから。私共も委員に選ばれて一般公募で出てきてくれた委員の方もおりですね、やはりこれ私たちは話に出ておりますけど、プロではないのでどうしたらいいかということ結論を出すことは正直言って難しいと思いますけど、皆さんと話をしながらですね、梶原町の将来を思いですね、観光協会が考えたときに、やはりこの程度の規模じゃという風な最終的な結論は出したいと思います。私は太郎川公園を考えたときに、太郎川公園は言われるとおり梶原町の東の玄関口でもありますし、その中でもホテルはこれは大きなメインの施設でもあるし、もともと太郎川が開発された

時のようにやっぱり公園もしっかりと整備をしていただいて、それで構原に来てくれるお客さんが町内を全部をこう回っていただけるようなそういう取り組み、太郎川のホテルだけじゃなくしてですね、構原町には旅館も民泊もあります。そういうものと一緒になってですね、お客さんをもてなしていく。そういう役割を是非ですね、観光協会に担っていただいてそれでお客さんを呼ぶことによってですね、雲の上のホテルもまた経営が安定していくんじゃないかなという思いで、私はそんな観点で考えていきたいなと思って今現在おります。今日はですね、予定の時間が参りました。これで結論が出るような話ではございませんので、それぞれ皆さんが今日お聞きをしていただいたことをですね、念頭においていただいて次の会にですね、また前向きなご意見がいただけるようなそういう風にしていきたいと思いますので、本日のところはみなさんのご意見の集約は以上で終わらせていただきたいと思います。それでは次の日程についてですね、ちょっとお話をしておきたいと思うんですけど。このスケジュールについてですね。これ、事務局。

・日程調整

【空岡委員長】

それでは、今日、本当に長時間にわたって貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。次回は12月の9日、今日と同じく6時から開催ということでございますので、また皆さんのご出席いただきたいと思います。また改めて文書の方は送らせていただきますので、よろしくお願いをいたします。本日は以上で終了させていただきます。